

会員数 57名 出席者44名・欠席者14名・免除会員5名
 欠席者 秋山恒・天野・麻田・飯間・池田・和泉清・和泉享・加内・松山
 森・中西・中野昌・橘・谷本-会員

前々回出席率 69.81%(9/17)

MARUGAME ROTARY CLUB WEEKLY

 会長 大西 和彦
 幹事 齋賀 護
 会報委員長 曾川 泰廣

お知らせ

- ∴ 10月のプログラム
 - 1 (No.1)-クラブフォーラム
 - 8 (No.2)-会員卓話
 - 15 (No.3)-クラブフォーラム
 - 18 (No.4)-職場例会
 - 29 (No.5)-会員卓話
- ∴ 他RC例会変更
 - 坂出東10/14→10/13合同例会
 - 10/21 秋の賞味会
 - 10/28 早朝清掃例会
 - 琴平 10/9 灸まん美術館
- ∴ ニコニコBOX;
 - 祝誕生日
真鍋君 陶國君
 - 祝結婚月
真鍋君 大山君 十鳥君
 - よいことがありました
岡田君
 - 三男の第一子で私の6人目の孫が誕生しました
小山君
 - 久しぶりに董琴さんに来て
大西和彦君

<ニコニコ会計累積/¥159,000>

- ∴ がんばるBOX;
 - 米山月間卓話を終えて
大山君
 - 政治献金問題で世間をお騒がせしています。すみません。
夏見君 塩田君
 - 来週の卓話宜しく願います。
陶國君

<がんばる会計累積/¥119,000>

例会場・事務局

丸亀市塩飽町50-3 丸亀プラザホテル内

■会長挨拶

先週の木曜日は山田ガバナーの公式訪問がありました。例会後、ガバナーならびに随行者等5名と中津万象園へ参りました。万象園では、真鍋会員自ら庭園ならびに美術館の説明を約一時間に渡ってしていただきました。山田ガバナーも丸亀のこのような素晴らしい庭園に感心されておりました。真鍋会員の「お接待の心」に感謝します。その後喫茶室で30分ほどお話をして解散いたしました。

先週の土曜日は米山記念奨学会の大山委員長と香川第I第II分区米山協議会・懇親会に出席しました。後ほど大山委員長からお話があると思いますが、私が特に印象に残っていることとお話します。米山奨学制度を作ったのは東京RCの古沢丈作であるとか、日本人の第1号のロータリアンは福島喜三次であるとか、東京RCの運営は最初いい加減であったなど、太田パストガバナーのお話でした。一度客話をさせていただいてはどうでしょうか。懇親会后、8年前の奨学生であった董琴さん(高松在住)に電話すると、快く会場まで出向いてくれたので、以後彼女の店「香蘭」で二次会をしました。メンバーは大山委員長、辛歎さん、野間教官、タイの奨学生、石橋教官そして私の6名でした。タイ奨学生の「わび」とか「さび」の質問には困ってしまいました。

■幹事報告

- ①ガバナー訪問時のご協力ありがとうございました
- ②例会後、理事会を開催いたします

■委員会報告

- ①山内光SAAより、クールビズは10月31日まで
- ②石合国際交流委員長より、日本語教室修了パーティーに参加して来ました
- ③川原プログラム委員長より、カマタマレ讃岐観戦のご案内

■例会事業;クラブフォーラム;米山記念奨学会 大山委員長

ロータリーでは毎年10月は米山月間と定められており、本日は米山記念奨学事業についてお話させていただきます。

ロータリー米山記念奨学事業とは、日本で学ぶ外国人留学生を対象とし、日本のロータリーが作った独自の事業で、日本の全34地区が推進する合同プロジェクトです。

将来母国と日本との懸け橋となって国際社会で活躍する優秀な留学生を奨学することを目的としています。

最大の特長は世話クラブ・カウンセラー制度で、奨学生は月に1回は例会に出席が義務付けられており、ロータリー活動に共に参加してもらい、交流することを大切にしています。



(裏へ続く)

2015.10.1

Vol.53

№13

(2582)

米山奨学金は、1952年東京RCがはじめたもので、人と人との交流こそが、平和な世界の基礎を作ると考えていたのです。東京RCが始めた「米山基金」は、わずか5年で、日本の全ロータリークラブの共同事業となり、1967年には財団法人ロータリー米山記念奨学会が設立されました。2017年には、財団設立50周年を迎えます。年間の奨学生採用数は720人(枠)、事業費は12.4億円(2013-14年度決算)と、国内では民間最大の国際奨学事業となっています。これまでに支援してきた奨学生数は、累計で18,648人(2015年7月現在)。

今年度の2670地区の奨学生は20人(新規14人、継続6人)、そのうち香川県では6人の奨学生がいます。奨学生の選考にあたっては、まず、指定校からの推薦を受ける必要があります。その推薦を受けてから、地区の選考を受ける必要があります。今、皆さんの周りには、狭き門をくぐりぬけて採用された、優秀な学生たちです。

寄付金の額で奨学生の各地区への割り当て人数が決まります。寄付金が多くなれば奨学生も多く迎えることができます。2670地区の昨年度の平均寄付額は13,251円で、全国平均は15,996円でした。今年度の2670地区の目標は、普通寄付6,000円＋特別寄付10,000円の合計16,000円ですので、今後も一人でも多くの奨学生を受け入れることができるようご協力よろしく願いいたします。

■次週の例会プログラム;会員卓話;陶國会員